環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.38
編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財) 千葉県環境財団環境技術部
環境啓発チーム
電 話 043−246-2180
FAX 043−246-6969

始まりましたよ！！「印旛沼をきれいにする活動」が！！
～3歳のちびっ子から77歳まで参加！！～

環境パートナーシップちば主催

＜「印旛沼をきれいにする活動」って、なに？＞

印旛沼の水は、飲み水として使われている湖や沼の中でワースト1。夏休みに印旛沼の流域で、水しらべ・生き物しらべ・ゴミ拾いの体験をして、どうしたら印旛沼の水がきれいになるかをみんなで考えましょうと企画（4回シリーズ）。

＜学びの中に遊び心も＞

7月17日(土)１０：００から、千葉県内水面水産研究センターにて、「印旛沼をきれいにする活動」のオリエンテーションが、3歳のちびっ子から77歳まで約30名が参加し、加藤賢三氏(環パちば代表)が、「学びの中に遊び心も組み込んだ企画です。自主的に目標を持って参加しましょう。」と、スタートした。

＜白いアメリカザリガニ？＞

滝口明秀氏（資源環境研究室長）が、ビデオでセンターの活動(漁場としての河川の有効利用・自然や川の保全)や、印旛沼にいる魚を紹介した。実際に展示室でウナギ・ナマズ・コイ・アユなどを観察し、カロチノイドが無い餌では白いアメリカザリガニになったり、モツゴは佃煮として名産になっているなど、楽しいお話しだった。

＜無洗米を使って！！＞

続いて、大塚正明氏(「NPO いんば」副理事長)が、「NPO いんば」は***泳げる印旛***を目指し活動している、現場を見て確かめることの大切さ、子どもたちの水しらべを学校の総合学習として数年前から学校と一緒に取り組んでいることなどを語った。驚いたのは、沼の汚れの40パーセントは歯磨き・調理・風呂などの生活雑排水で、その半分は米のとぎ汁？という報告だった。「NPO いんば」は、水田での米づくりから、無洗米の普及と販売を呼びかけている。流域の人たちは、印旛沼に生活排水を流し汚していることに気づいて、無洗米を使って欲しいとのこと。

＜チョウトンボ＞

「NPO 印旛野菜いかだの会」の係留場に場所を移し、笠井貞夫氏(「NPO いんば」顧問・水生植物研究家)が、印旛沼の竜伝説が竜角寺・竜腹寺などの名称に残っていることや、印旛沼の昔の様子を説明した。

「水草植物園」では、水がにごると光が水底まで届かず、沈水性植物が全滅し浮遊性植物のオニビシなどが繁茂すること、水草の花は午前中に咲き終わり、毎日見る花は違う花が次々と咲いていること、ガマ・ヨシ（アシ）・マコモ・アサザなどの興味深いお話が続いた。また、姿かたちが「チョウなの？トンボなの？」と不思議がっていたら、「チョウトンボ」というそのままの名前だったので、みんな大笑いだった。

＜水調べ、生き物調べ＞

千葉県環境学習アドバイザーの中岡丈恵氏が水調べ、同じく鈴木優子氏が生き物調べを、流域のそれぞれの地点での夏休み中の体験に備えて、ペットボトルの透視度計のつくり方、水の採り方、パックテストのやり方、観察ノートの記入などその場で採取した水を使ってわかりやすく説明した。観察ノー

トを持ち寄って、8月21日の印旛沼周辺のバス研修で会いましょうねと別れた。炎天下の暑さの中、熱心に参加して下さった皆様には、本当にお疲れ様でした。（文責：縣　和子）

印旛沼のバスハイクをしませんか！！

～印旛沼をきれいにする活動パートⅢ～

主催：環境パートナーシップちば

印旛沼は、飲み水として使われている湖や沼の中でワースト１です、「印旛沼をきれいにする活動」は、印旛沼流域で土手のゴミ拾い・水の調査・川の生き物調べ・バスツアーなどに参加し、住んでいる地域を知るきっかけづくりをする４回シリーズの体験プログラムです。

「パートⅠ　オリエンテーション」は７月１７日に終了しましたが、夏休みに参加者の希望する川で体験する「パートⅡ　川の水しらべ・川の生き物しらべ」は、まだ申し込み・参加できます。

その観察ノートを持って、「パートⅢ　バスハイク」に参加しませんか！！日本一大きな田んぼの見学、地下を走る農業用水、水害を避けようと２階だけに住む水塚、グリーブのショッピングなど、学びの中に遊び心が盛りだくさん！！

１０月３日(日)に「パートⅣ　体験の振り返り」があり、同日開催の「よみがえれ印旛の秋祭り」に自由参加できます。

１）開催日　２００４年8月２１日(土)
２）開催時間　１０：００～１６：００
３）開催場所　印旛沼周辺、水土里ネット印旛沼、独立行政法人水資源機構
４）対象　水の調査・川の生き物調べに関心があり、夏休み体験に参加できる人
５）先着順　定員１５人（オリエンテーション参加者を除く）
６）参加費　無料
７）問合せ　TEL/FAX ０４７-３６４-３９５０（縣：あがた）
８）当日のスケジュール
　９：４５　・集合(京成佐倉駅ミレニアムセンター前)
　１０：００～・「水土里ネット印旛沼」のお話（高橋修氏）
　１０：４０～・スーパー水田(日本一大きな田んぼ)の見学
　１１：２０～・一本松揚水機場（印旛沼で最大の農業用取水場）の見学
　・農業用水の地下ステーションの見学
　１２：２０～・昼食（印旛沼公園）
　１３：２０～・水塚の見学・流域ミニハイク（小林牧場）
　１４：２０～・印旛排水機場と利根川のお話(水資源機構)
　１５：２０～・グリーブ(日本農業賞受賞、地産地消の道の駅)のショッピング
　１６：００　・解散(京成佐倉駅ミレニアムセンター前)

エコサロン報告　「諏訪湖見学とアダプト制度」

６月２５日１３時半～１５時半、千葉県庁２ＦＮＰＯパートナーシップオフィス会議室に於いてエコサロンが開かれました。講師は代表の加藤賢三氏です。参加者は１５名でした。

アダプトにおける「ＡＰＡ＋S」

「Ａ　アダプト」「Ｐ　パートナーシップ」「Ａ　アグリーメント＝合意（市民・企業と行政間の合意)」＋「Ｓ　アダプトサイン（宣伝・看板)」アダプト制度についてビデオを用いて説明がありました。その中でうたわれていたのが「ＡＰＡ＋S」です。

八千代市の事例

八千代市が平成１５年５月にアダプト制度を採用することになり、花輪川での清掃作業を八千代オイコスが委託されて行っています。団体と市で契約書を交わし、共有します。市からは、清掃用具・保険・看板が提供され、団体は作業することと報告するということが義務付けられました。八千代市の場合は、全方位アダプトといって河川もあれば公園も空き地も道路もある、というマルチなやりかたでアダプト制度を展開しています。その数は４１団体、個人８人、５６ヶ所にもなりそれぞれが責任をもってこなしています。八千代でまとめているのは、市民活動を推進している課ですが、成田の方では環境部がまとめています。市民活動だから市民課なのか、環境だから環境課なのかというのではなく、それぞれやり方があるのだと思います。

八千代オイコスと花輪川プロジェクト

オイコスは、ギリシャ語で「家」という意味です。家は、本来環境のもとである経済と環境を併せもって考えられた。経済と環境すなわちエコノミーとエコロジーは本来同じところから発生したもので、もう一度同じところから考えることによってこれからの環境を考えていくのに示唆に富んでいるのではないか。「車を追いかけてオイコスのではありません。」

「花輪川プロジェクトで一番やりたいことは、『河川管理』です。河川は、本来行政が管理するもの。しかし、河川の管理が総合治水という考え方になると環境も治水も考える。するとパートナーシップという住民との協働という形が、これからますます重要になっていくのでは、と考えます。現実には、アダプト・プログラムによって、市民の役割、行政の役割を合意書でお互い確認することになるのです。」

印旛沼にアダプト制度を！

現在、環境パートナーシップちばは印旛沼にアダプト制度を活用しようと進めています。そして、似たような事例として、諏訪湖を見学してきました。諏訪湖は３２ヶ所でアダプト・プログラムを展開、１ヶ所を２団体で受け持っています。それを示しているのがアダプト・サインである「看板」です。

「例えば、花輪川でいえば八千代オイコスがこの辺りで活動をしているのだな、ということが看板によって分かります。私たちも、これで認知されたという感じで活動できるというわけです。」

アダプト・プログラムは、これから、もっともっと自分達に合ったやりかたをしていくことにより、もっともっと自分達向きのプログラムが出来るの

ではないでしょうか。印旛沼流域のごみが減り、その結果として、印旛沼の水質が改善されることを期待しています。

次回の　**エコサロン**

日時　８月２０日（金）　１８時３０分～２０時３０分
場所　千葉市コミニュティセンター講習室　５階　５２講習室
話題　印旛沼水循環健全化計画ー今後の課題と市民参加
講師　千葉県県土整備部河川計画課　企画調整室　副主査　三品圭史氏
参加費　　資料代５００円

私の体験的パートナーシップ

代表　　加藤　賢三

環境教育フォーラムⅡとして、平成１６年６月５日（土）、環境の日の記念に千葉県立中央博物館で、「今、パートナーシップについて考える」が開催されました。

このフォーラムでは、「パートナーシップはいらない？」という表題で講演させていただきました。「パートナーシップは本当に必要なのか」、を考える機会にできればとの思いからでした。

八千代のほたるの里づくりは、実行委員会形式で市民と行政と企業、三者のパートナーシップを続けて７年目になりますが、今まさに市民がより積極的に関わる時期にきていると思います。パートナーシップは頭で覚えるのではなく、体で覚えるものであることを実感しています。グラウンドワーク三島の渡辺豊博氏の言葉を借りれば、５０回でも１００回でも会合を重ねること、長時間の会合は必要ない、立ち話で十分。そんな言葉が印象に残っています。

「環境パートナーシップ」

千葉県では、１９９５年に環境シンポジウム千葉会議、１９９６年にはエコメッセちばが開催されました。それにつづき、１９９７年に環境パートナーシップちばが行政主導型で設立されました。環境パートナーシップちばを昨年から引き継ぎ、自立する形で会を運営してきました。これからは、緊張感のある関係でもう少し提案できるような自主的な活動が出来るようにやっていきたいと思います。

そして、表題にあるパートナーシップはいらない？という部分は、いままで経験した協働、言い換えれば、人と人との信頼関係とコラボレーションが大切ということで括ってみました。

昨今、「持続可能な社会の実現に向けて」、そしてそのためのサブタイトルとして、「資源循環型社会の構築に向けて」がとてもよく使われています。待ったなしの環境問題として、この持続可能な社会の実現に向けて、環境パートナーシップがいま最も必要とされているように思われます。

のびやかな歌声・楽しい環境フェア

船橋市　大西　優子

６月５日環境の日に「船橋市環境フェア」は、住宅地を控えた新京成沿線の高根台公民館で開催されました。

八木が谷小学校音楽部４０名の、自然環境をテーマにしたすがすがしいコーラスが晴れわたった青空に響きわたり、感動的なオープニングになりました。狭い会場なので約３０００名の来場者は、時間帯によっては公民館に溢れていた感がありました。

参加団体は自分たちの活動をどうアピールするかを会場の関係から昨年に比べ小さくなったスペースで、展示やワークショップに工夫を凝らしていました。メダカやザリガニ・手づくりコーナーも人気を呼んでいました。

例年の小学校の環境活動発表は、講堂の後ろや横の壁にびっしりの立ち見でした。１０分間の中で、学んだこと・訴えたいことをまとめて劇に仕立てての表現力豊な子どもたちの学習発表には驚きます。同時に、市の環境調査に基づき調査員が自主的につくった散策コースの紹介・環境大臣表彰を受けた２団体の発表も行われました。

来場者から２７０枚のアンケートが寄せられましたが、環境について日ごろ感じている事では、年代を問わずごみの減量に関心を持っている人が最も多くありました。ついで、自然を大切にしたいでした。運営については、いろいろなイベントを楽しみながら環境について学べた・お祭りよりこっちが好きとの嬉しい言葉も頂きました。

今年の参加６２団体と公募による７名のボランティアは、４部会に分かれ環境フェアの成功のために半年間協力し合ってきました。企業の参加も増え心強い限りです。また、立地が商店街に隣接している事もあり、環境フェアへの理解を頂く努力もしました。

船橋市環境フェアが開催されて７年目、実行委員会方式で４回目の開催になります。年々積み重ねてきた実行委員会を通じて、団体間の親しみや交流も深まり、ネットワークができつつあります。

里山に託す私たちの未来　～第１回里山シンポジウム開催～

里山シンポジウム実行委員会　桑波田　和子

平成16年5月15日（土）、第１回里山シンポジウムが、木更津市かずさアカデミアパークにおいて開催されました。昨年この地において、全国植樹祭が開かれ、全国初の里山条例が千葉県で施行された5月18日を「里山の日」としました。里山シンポジウムは、「里山の日」1周年記念の「里山フェスティバル」の１つとして里山シンポジウム実行委員会、千葉県、（社）千葉県緑化推進委員会が共催しました。今回のシンポジウムは、2月14日に千葉県立中央博物館で開催した「里山勉強会」を受けて、里山条例が県民にもっと浸透して欲しい事、里山（田んぼも含む）に関わる課題と展望を11の分科会（①教育・学習②医療・福祉③森林・林業④稲作・水⑤文化・伝統⑥観光⑦水循環⑧生物・ビオトープ⑨残土・産廃⑩芸術⑪政策）を通して話し合う場としました。

私が担当した水循環の分科会では、はじめに勝浦の里山の水の流れを追ってみました。谷津頭には産廃があり土壌や地下水が汚染され、森は手入れされていないことで保水性を失い、また増え続ける休耕田など里山の現状を知りました。地域住民の結束力、行政とのかかわり、里山暮らしが出来る経済の仕組み、など多くの課題を抱えています。次に飲み水として使われている湖や沼の中でワースト１の印旛沼については、県土整備部より「印旛沼緊急行動計画」について、行政の取り組みを説明していただき、行政の方針などお互いに聞くよい機会でした。また、

「水田を活用した水質浄化モデル事業調査」を我孫子市役所の方にお聞きしました。豊かな里山になることが水循環に果たす役割の大きさを思うとき、④稲作･水など他の分科会と連携する必要性があり、今後の課題のひとつと考えます。

今回のシンポジウムの特徴のひとつは、各分科会に市町村、県の各部の枠を超え横断的に参加されたことです。堂本知事と大槻副知事も参加下さいました。これからは真のパートナーシップの構築がますます必要になると思います。また、参加者は千葉県内はじめ、東京都、神奈川県、埼玉県と県外の方、大学生の参加が目立ちました。協力団体も 100 を超え、里山への強い関心を感じます。シンポジウムを終え今後実行委員会は、里山新聞の発行や、緩やかなネットワークを作りながら、里山保全に向けて活動していきます。

「松戸の環境団体顔合わせ会」の始まりとその活動について

松戸まちづくり連絡協議会　代表幹事 榎本 孝芳

今年松戸で動き始めた仮称「松戸の環境団体顔合わせ会」について紹介させていただきます。この会は次のような趣旨で始りました。

松戸を活動拠点とする環境関係団体には、素晴らしい活動をしている団体が数多くあります。しかし、いままでは各団体がそれぞれ独自の活動を行っており、団体間の情報交換、連携の事例は少ないと聞いています。今後、環境問題に取り組む各種団体が団体相互間の連携はもちろん、行政・企業とも連携して「まつど」の環境を良くする活動を推進することにより、活動の成果は今までより数倍にも増すことが期待できます。このため、まず仮称「松戸の環境団体の顔合わせ会」を松戸まちづくり連絡協議会が世話人となって推進しようとする試みです。

以上のような趣旨で松戸市内の 20 の団体に「お誘い」したところ 10 団体 18 名の方に集まっていただき、第 1 回仮称「松戸の環境団体顔合わせ会」が開催されました。会の中で各団体の自己紹介や、交流を進めていくうちにいくつかの課題が見えてきました。会の活動や会員の広がり、活動資金の問題や行政との連携など、みんなで知恵を出し合って連携しなければ乗り越えられない問題が議題となりました。

第 3 回仮称「松戸の環境団体顔合わせ会」では松戸市役所の環境(河川やみどりなど)の 4 ヶ所のセクションと「まつど街と水辺の緑化基金」に参加していただき行政との連携について話し合いましたが、このような事は松戸市では画期的な事でした。

パートナーシップが叫ばれて久しくなりますがまだまだ「垣根」が沢山あると実感しました。また同時に「協働」への手応えも皆さん感じていただいたようです。

この会の活動が「パートナーシップ」の実践に役立つようにこれからも続けて行きたいと思います。

会員の声から～　パートナーでの活動推進のために

木野村　秀夫

環境という幅広い分野での循環型社会を相関係数的に見てトータルシステム（Ｃｏｍｐ．SE 時代によく使った）の理念に基づく幅広い対応なくしては、循環型社会の完成は有り得ないとの考えから 8 年余りの体験から私たちのグループや私自身の自己啓発活動の一端を紹介致します。

“三位一体”は 16 世紀からの言葉ですが、能力的にも病身のため実行動は相互理解への継がりを求めての啓発活動です。

1.内閣府安全委員を含む農水省生活安全局主催のリスクコミュニケーション意見交換会や、国民生活センター主催の「生ごみ全国大会・第三分科会」での発表等。

2.地域行政共、県民生活課や千葉市環境調整課関連の環境月間、消費者フェスタ、女性センター祭りへのパネル展示（年度によりテーマは「ごみ問題」「食の安全と安心」）と参考資料の配布や質疑対応（自己啓発の結果が生かされるのです）並びに行政の政

策反映を期待したアンケート調査による参加者意識調査を実施しました。
3.グローブジャパン（衆参議員の集まりで橋本元首相が会長）に年１回オブザーバーで参加し、東京湾の水問題について発言。国際科学技術財団（日本国際賞を出している）主催の毎月のシンポ、講演会や日本国際賞の受賞者講演会に参加させて戴き、又、国立環境研究所公開講座（各年度の研究結果報告）に参加。
4.かずさＤＮＡ研究所の公開講座でのハワイ大学教授への質問（ハワイでの遺伝子組み替え食品に対する表示）
5.企業見学も三菱化学、キリンビール（遺伝子組み換え麦の混入について質問）、東京電力火力（千葉）、風力（富津）発電所（CO２や熱効率、環境負荷等質問）又、連合千葉の「夏休み親子で自然を楽しむ会」に４年連続参加（16年度は自然系グループに移譲）、流通関係は JA 旭センターで地産地消（千産千消）や残留農薬対応後のキウリの自動選別出荷や水栽培の葉もの（土壌の心配なし）、チエーンストア協会との接触（イオン株等）
6.地域の小中学校課外学習やクラブ活動（15～16年度は「自然と科学」グループにレモンや塩水を電解液とした電池作り。（個人的には某大学院博士課程の学生に自宅で対応。（環境 NGO 中心）
7.環境ＮＧＯへの参加。

エコメッセに 遊びに来てね

「エコメッセちば」は、持続可能な社会を目指して、市民・企業・行政のみんなが良好なパートナーシップのもとに協働し、開催する環境活動見本市です。
　子どもも大人も、みんなでつくる環境のためのお祭りです。
　「エコメッセちば２００４」は、県とＮＰＯとの協働事業として実施します。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

■日時　平成16年8月8日（日）10：00～16：00
■場所　幕張メッセ　国際会議場
■入場料　無料
■テーマ　「恐竜は・・・・
　　私たちは資源循環型社会をめざす」
■内容　いろいろな市民団体・企業・行政が「エコ」をテーマに日頃の活動を持ち寄ります。
　　貴方の目で確かめにきませんか
・エコ商品の販売、製品展示、パネル紹介など
・市民団体等の環境活動の紹介
・企業等の環境対策、環境事業の紹介
・自治体等の環境施策、環境事業の紹介
・学校等における取り組みなどの紹介

環境問題は「もぐらたたき」とおなじ。ゆだんしているとあちらこちらから問題が頭をだしてきます。エコメッセで「もぐら」の正体を見てみよう。「もぐら」をやっつけよう。夏休みの宿題（特に自由研究）の参考になると思うよ。子どもの体験コーナーもあるよ 。

問合せ：「エコメッセちば２００４」実行委員会事務局
〒260-0021　千葉市中央区新宿2-3-17　ワンアップ・アド・システム（株）
TEL　043-241-3023　　FAX　043-241-3002
Ｅメール　info@ecomessechiba.jp　　ホームページ　http://ecomessechiba.jp

シンポジウムの分科会参加の感想を募集！

次号のだよりでは、シンポジウムの分科会の感想をたくさん掲載したいと思います。
全体会の前に、あなたの生の声を聞かせてください。
ＦＡＸ＆メールにてお待ちしております。（締め切り：１０月１０日）
宛先：広田ゆきえ
Tel&FAX　047-381-8163　　E-mail hirotayukipon@jcom.home.ne.jp

「環境シンポジウム２００４千葉会議」は「これからの１０年活動」を提案します

メインテーマ「地球のあしたに向けて千葉からアクションを！」のもと、持続性の社会を目指すさまざまのプロセスを学ぶ交流と研鑽にご参加下さい。（全体会分科会共通参加費500円でいくつも参加可）

第１分科会（地球温暖化防止）　「ふみだそう地球を冷ます第１歩」　定員100名
平成16年9月26日（日）10時～16時30分　千葉市民会館予定、詳細は参加希望者に連絡
照会先 FAX：**043－245-5553**　e-mail：**kiyosi-ogura@city.chiba.jp**

第２分科会（ゴミ問題）　「捨てるから、活かす」　定員100名
平成16年9月5日（日）　13時～17時　千葉大学西千葉地区けやき会館3階
照会先 FAX：**043-207-7515**　e-mail：**kinoue@bi.wakwak.com**

第３分科会（みどりとみず）　「地域経済と“みどりとみず”の力」　定員100名
平成16年9月23日（祝）10時～16時　東邦大学理学部3号館
照会先 FAX：**0436-43-1019**　e-mail：**tanpopo@green.ocn.ne.jp**

第４分科会（環境教育）「子どもの未来のための環境教育－地域の力で明日から出来ること－」
平成16年9月11日（土）13時～12日（日）15時 1泊2日　定員　50名
市川市少年自然の家（参加費4300円、市民と在勤者1900円）
照会先 FAX：**047-305-1722**　e-mail：**chibaee@hotmail.com**

第５分科会（環境保全）　「循環型社会を目指して」　定員　70名
平成16年9月25日（土）10時～16時　高度ポリテクセンター会議室（JR海浜幕張駅近く）
照会先 FAX：**043-225-3459**　e-mail：**chibakaigi5@hotmail.com**

全体会：平成16年11月14日（日）10時～16時50分
日本大学生産工学部津田沼キャンパス　基調講演；千葉県副知事大槻幸一郎
内容：基調講演、表彰式、分科会報告、ﾎﾟｽﾀｰｾｯｼｮﾝ、ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ、提案
「今までのふりかえりから、これからの１０年活動を提案します」

申し込みは下記事項を添えてお願いします。照会用電話０７０－５５８４－５９４０
１、お名前（フリガナ）　２、住所（〒付き）　３、電話／FAX番号
４、電子メールアドレス　５、年代（例えば５０代）６、所属の団体名
７、参加回数（今回はじめてとか）
８、参加希望の分科会名（いくつでも）と全体会参加希望の有無
９、10周年記念誌（全体会資料）の購入（当日予約800円、郵送1000円）の希望の有無
10、2004会議報告書（郵送等300円）の希望の有無
11、全体会ミーティングランチ（飲み物付き600円予定、バイキング形式）の希望の有無
　福祉パンもあります。楽しく語らいながらのランチを！
12、全体会当日の託児・介護の希望の有無
申込FAX：０４７－３３６－３７８５　電子メール：**chibakaigi@hotmail.com**

総務部より 運営委員会だより

５月の運営委員会
○運営委員の日程調節が難しく、開催は見送り

６月の運営委員会（６/２５）
○参加行事予定
・鎌ヶ谷市の活動展示（鎌ヶ谷市役所、６/７～６/１８）
・環境教育フォーラムⅢ「食・農と環境を考えるパート２」（千葉県立中央博物館、７/３）
・「印旛沼をきれいにする活動」のオリエンテーションの開催（内水面水産研究センター、７/１７）
・「ロードフェア」（千葉市中央公園、８/７）
・「エコメッセ２００４」（幕張メッセ、８/８）
○報告、協議事項
・助成金の申請書提出（印旛沼環境基金）
・「松戸市の環境団体顔合わせ会」の参加の報告（ゆうまつど、６/２２）
・環境教育フォーラムⅡ「今、パートナーシップについて考える」に、加藤代表の講演（千葉県立中央博物館、６/５）
・６月の「エコサロン」の進行について（６/２５）
・「だより」38号の企画・作業日程の検討
・エコメッセ２００４」の出展内容の検討
・「印旛沼をきれいにする活動」の現状報告と、今後の検討
・会計処理について
・16年度運営委員会日程の検討

★地球大好き　環境メッセージ大募集！★

平成16年度のＮＨＫ「地球だい好き環境キャンペーン」では、「地球にやさしい暮らし」と「ふるさとの風景」の今をテーマに「環境フォト＆メッセージ」を募集しています。みなさんが撮影した環境についての写真１枚と、それにまつわるメッセージお寄せください。
テーマ：「地球にやさしい暮らし」と「ふるさとの風景」の今
募集期間：平成16年３月22日（月）～17年２月10日（木）
応募方法：カラー写真１枚と、それにまつわるメッセージ（200字以内）に応募用紙を添えてお申し込みください。（応募用紙は県庁環境政策課環境再生室にもあります。）
送り先：千葉放送局「環境フォト＆メッセージ」係
〒260-8610　千葉市中央区中央4-14-14　(043)227-7311
インターネットからも申し込めます：http://www.nhk.or.jp/kankyo/about/oubo.html
携帯メール：携帯メールに「お名前」「お名前の発表の可能／不可能」「年齢」「住所」「電話番号」「作品タイトル（20文字以内）」「テーマ（『地球にやさしい暮らし』『ふるさとの風景』のいずれか）」「メッセージ（200字以内）」をご記入の上、静止画を添付してm-kankyo@nhk.jpにお送りください。

御礼
総会時に、佐竹敬一様よりご寄附をいただきました。
パートナーシップの活動に、大切に役立てさせていただきます。

★広報をお手伝いしてくださる方を探しています。あなたのほんの少しのお力をいただけませんか？
誰か私を助けてください（笑）取材から発送まで、楽しさもいっぱいです。
広田ゆきえ　hirotayukipon@jcom.home.ne.jp　047（381）8163

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。
申込先：千葉県環境財団　環境技術部
環境啓発ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　FAX:043-246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団環境技術部環境啓発ﾁｰﾑ気付
＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書
会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人1,000円　団体2,000円　賛助会員5,000円		